

(特集)定山溪鉄道 ☆タブレット閉塞機復活

昨年10月30日、北海道新聞の記事となった定山溪鉄道(略・定鉄)について、所蔵している郷土資料館から経緯を振り返り説明を致します。

昭和61年3月に通行屋保存会の南里輝雄事業部長が、定鉄に関わる展示品を調査中に南区小金湯で「黄金湯温泉旅館」を経営されていた板倉弘三氏から「タブレット2台」の寄贈の申し出があり、早速に引き取り收藏、4月に文化財と資料館の公開後、5月ころ元定鉄保線区電気係を担当した大井正男氏(団地町内)が来館して「これは電気があれば動くぞ……」とのお墨付きをいただきました。が廃止後17年余り、運び出すための断線、スライダーは錆で動かず、手の施しようが無い状態の



(写真・修理中の閉塞機と田中秀俊氏)

展示。年が経ち令和元年5月、子息と来館した田中秀俊氏が紐を引いて音を出すのを、「何とか電気で鳴してみたい」と言う熱意から、廃止日だった10月31日迄を条件に作業に取り掛かり、職業はJR運転士の傍ら休みに毎週の毎く江別市から簾舞に通い幼少より鉄道模型などで電気にも精通した技能を生かし、図面もないため三笠市の鉄道記念館等で展示品を研究、閉塞機の鍵を取得し元々通電は箱形乾電池20数個を格納し使用していたのを通常の100Vに切替え、タブレット12V・電話機6V減圧する変圧器も東京から取寄せ、断線をテスターであたり接続させました。通行屋まつりには、ボタンを押すと懐かしい「ボン〜」と「カン〜」の音を出し、電話も雑音ながら「もし〜」が可能になり来館者に聞いていただきました。あとはタブレットの出し入れで配線を模索しながら繋ぎ約束日の前に完了、取出口への落下音・「ガチャ〜ン〜」も久しぶり！錆落しに始まって早や6ヶ月、館内に50年ぶり「駅舎の音」が甦りました。2台の閉塞器のうち、1台は「簾舞駅」にあって下り滝の沢駅と繋がる「椀型式(大正7)」で、もう1台は「滝の沢駅」にあって上りの簾舞駅と繋がる「渦巻式(大正13)」、何れも第三種△(ウロコ)穴のタブレットを使用してBOXを開閉した時にそれぞれ1個ずつ収納されていました。

【タブレット(通票)】

タブレットは、鉄道の単線に二本以上の列車が入るのを防ぐ・いわば通行手形。本体は直径10センチの真鍮(しんちゅう)製の円盤で、「キャリア」と言う円形状のワイヤの付いた皮ケースに収められている。腕木(うでき)式信号機とともに鉄道の運行の安全を守りました。例えば、列車が滝の沢から簾舞駅に着くと運転士は、滝の沢駅で受取ったタブレットを簾舞駅長に渡し、代わりに簾舞〜藤の沢駅間のタブレットを受取り発車した。

地域の歴史シリーズ

No.70 2013.4 発行 旧簾舞通行屋保存会

良質の木材が産出される定山溪沿線は、簾舞や定山溪を中心に昭和30年代頃まで冬山造材に農家の人々を中心に出稼ぎが行われ、冬期間の主な収入源となった。農耕馬(トロッター/ヘルシュロン)を引き連れ飯場(現場)へ入山し、大木を人馬一体になり危険な雪道を手綱ひとつで捌き、「タマ」や「バチバチ」を操り土場(集木場)まで運搬しました。また一般家庭では燃料(燃料)として、近郊の山の木の払い下げを受け、「それぞれがまたは共同作業で」伐木、鼓出し、集木して家まで運び、その後夏から秋の暇を見て薪切りして空地に積み上げ、その定尺が「一敷(いっしき)」と言われ、長さ二尺(約60センチ)径六寸(約18センチ)の薪を高さ五尺(約1.5メートル)巾十尺(約3メートル)に相当した量でした。そして積雪前までに小切り小割り作業をして薪小屋や軒下に積んで置きました。一般家庭では、7敷から10敷位を使用しました。



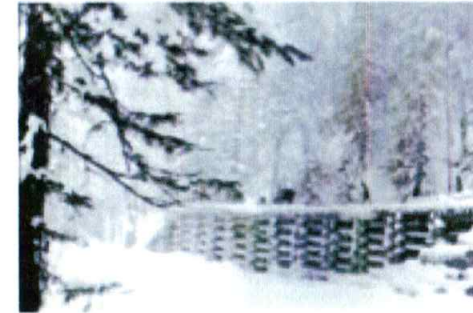
1. 飯場(現場)へ向かう状況 (昭和32)



2. 大木の伐木(昭和32)



4. 「バチバチ」による運搬 (昭和33)

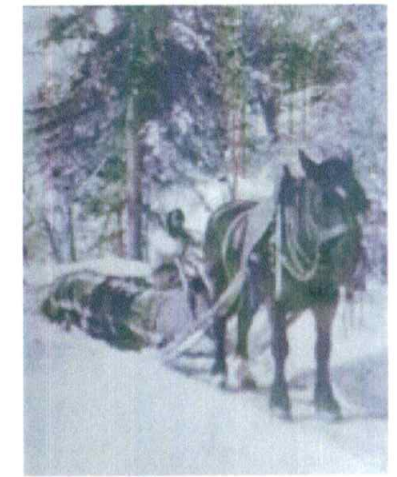


5. 木材の集積場「土場(どば)」(昭和32)

冬山での仕事

伐木造材の現場から

資料 簾舞郷土資料館



3. 「タマ」による運搬 (昭和33)



6. 燃料(薪)の積み上げ (昭和31)

☆屋外展示/定鉄キロポスト

通行屋 & 資料館
ここに注目
館外も少しづつ
整備されています



建物はmini開拓村
展示品は昔を語る
物言わぬ学芸員

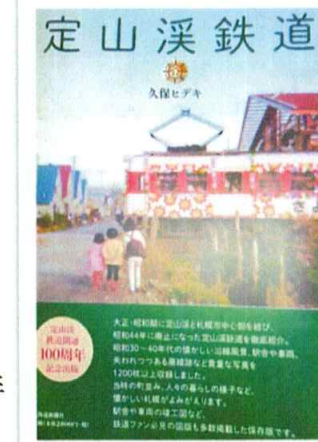


(写真・キロポスト 21km 1/2) 屋裏の市道横に設置しました。

☆今に続く定鉄を介した簾舞との「縁(えん)」

○ 平成30年7号で紹介した久保ヒデキ氏の「定山溪鉄道」の本が、昨年全国の鉄道ファンでつくる「鉄道友の会」が優れた著作物に贈られる、「島秀雄記念優秀著作賞」を受賞されました。前にも述べたように中学時代に簾舞川鉄橋を見つけたのが、この本のきっかけだったと……。当時、鉄橋・橋台と枕木はあったが、線路は外され無かったと話してました。

○ 先に紹介・田中秀俊氏の母親は、元白川の療養所(札幌南病院)の看護師さん、正看を取得するために琴似(西札病)から推薦されて簾舞に、勉学で定鉄を利用し地域医療に従事した努力家で、貰った国療遠景写真を大切に飾ってた……。



(写真・「定山溪鉄道」の本)